長門の話題 Topics

通小学校で「通鯨唄」引継式

いつまでも引き継がれる伝統

古式捕鯨で栄えた通地区に伝わる通鯨唄の引き継ぎ式が3月3日㈫、通小学校で行われ、全校児童29人が参加しました。

鯨唄は昭和63年から通小学校で歌われ始め、平成2年より卒業生から在校生への引き継ぎ式が行われています。

式では、指導にあたった通鯨唄保存会の皆さんが見守る中、児童全員で鯨唄「祝え目出度」を唄い、続いて2人の卒業生に向けて、在校生だけで鯨唄を披露しました。

在校生に法被を手渡した6年生の村田奈央さんと村田実洸さんは「これからも伝統を引き継いでがんばってください」と述べました。

▲法被の受け渡し

大浦地区大火防ぎょ訓練

自らの手で地域を守る

平成24年11月に市内湊地区で発生した大規模建物火災を教訓に作成された、特殊地域警防計画に基づく大火防ぎょ訓練が3月1日㈰、油谷大浦地区で行われました。

地区住民、長門市消防本部、長門市消防団など合わせて約200人が参加しました。

午前9時に住宅から火災が発生したという想定で訓練は始まり、119番通報や出動命令などの確認が行われたほか、放水訓練なども行われました。訓練後、流田寿雄消防団長が、「火災は地域住民の初期消火がとても大切。今日の手順をしっかり守り、いざというときには対応をお願いします」とあいさつしました。

▲火災現場へ急ぐ消防団員

▲消火栓の使い方について説明を受ける

市内中学校で「卒業式」

思い出を胸に羽ばたく

市内の中学校で3月12日㈭、卒業式が行われました。

仙崎中学校では、男子29人、女子34人の計63人が卒業を迎え、卒業生一人ひとりに山近洋祐校長から卒業証書が手渡されました。

山近校長は「これからも夢に向かって努力を続けてください」と式辞を述べました。

卒業生を代表して岡村佳寛さんが部活での思い出を語り、「先生や仲間に支えられていることを実感しました。すべての人に感謝したいと思います」と答辞を述べました。

この春卒業を迎えた中学生は、市内6校で計335人でした。

油谷小学校「バスの乗り方教室」

身近な交通機関に親しむ

3月16日㈪、ラポールゆや駐車場で、バスへの理解を深めるための「バスの乗り方教室」が行われました。

油谷小学校6年生24人が参加し、「バス乗車体験」などを通じて、乗車券の取り方や支払い方を学び、バスを身近に感じていました。

海上交通安全祈願祭

安全を願い海上パレード

観光船など海上交通の安全と多くの来客を祈る海上交通安全祈願祭が3月15日㈰、仙崎の青海島観光汽船桟橋広場で開催されました。

神事には従業員と海上保安部や市などの関係者合わせて約20人が出席し、1年間の海上での安全を祈願しました。

神事が終わるとクジラの形をした「ピンクシータス」を先頭に、7隻の観光船が県内各地から応募した50人を乗せ、大漁旗をなびかせながら海上をパレードしました。

乗客たちは美しい青海島の風景をバックに、海上パレードを楽しみました。

広報「ながと」デジタルアーカイブ、オープン

合併前の旧長門市・三隅町・日置町・油谷町の広報紙をデジタル化し、ホームページ上で閲覧できる「広報『ながと』デジタルアーカイブ」が合併10周年となる3月22日㈰オープンしました。

長門市合併10周年記念事業として、県内で初めて取り組んだもので、デジタル化することで広報紙の劣化を防ぎ、資料として誰もが閲覧できるようになっています。

アドレスはhttp://に続けて、www.nagato-archives.jpです。

※アーカイブ＝書庫

タグラグビーティーチャー研修会

タグラグビーを授業に

タグラグビーを普及させようと2月28日㈯、深川小学校で小学校教員を対象にタグラグビーティーチャー研修会が開催され、長門市・下関市・萩市の小学校の教師約30人が受講しました。

社会人ラグビーチームの九州電力キューデンヴォルテクスの選手たちが講師を務め、ルールやタグラグビーの特徴について説明しました。

参加者は、講師の説明を受けながら、体の動かし方やボールを使ったミニゲームなどを行い、実際の授業に取り入れる工夫などについて学びました。

▲タグラグビーを体験する参加者

認知症サポーター養成講座

安心して暮らせる地域に

3月11日㈬、明倫小学校で認知症サポーター養成講座が行われ、明倫小学校5年生24人が受講しました。認知症の知識や対応方法を学んだ児童は「認知症を知ることができて良かった。困っている人を見かけたら優しく声をかけたい」と話していました。

イベントを応援する「ふるさとキラリ賞」

通くじら祭り実行委員会が受賞

「通くじら祭り」を主催する同実行委員会が、(一財)地域活性化センター主催の「ふるさとキラリ賞」を受賞し、3月10日㈫、大西市長に報告しました。

この賞は、全国で開催される地域の活力を生み出すイベントを表彰し、さらなる発展を応援することを目的としています。

通くじら祭りは、鯨墓建立300年を記念して平成4年に始まったイベントで、「古式捕鯨」「鯨唄」などの伝統文化を地元有志が継承し、住民と一体となってイベント運営している点が評価されました。

▲「クジラ文化を発信したい」と安森藤吾実行委員長（中央）

第67回優良公民館表彰を受賞

地域住民の学習活動に貢献

第67回優良公民館表彰で長門市中央公民館が表彰を受け、3月4日㈬に文部科学省第二講堂で表彰式が行われました。藤本館長は「この表彰は、公民館の活動や運営に関わっている団体の皆さんのすばらしい取り組みによるもの」と表彰を喜びました。

長門の人 People

奈古 澄香（なごすみか）（17）

平成９年７月生まれ、仙崎錦町在住。大津緑洋高校入学後に弓道を始める。昨年の 11 月に行われた第 33 回全国高等学校弓道選抜大会山口県予選「女子個人の部」で優勝し、鹿児島県で行われた全国大会に出場。３年生となった現在は、部員をまとめる副主将を務める。４月 26 日（日）に長門市武道館弓道場で行われる第 44 回長門市武道館落成記念弓道大会に出場予定。平均的中率約 50％。段位は２段。

静寂な弓道場に響き渡る的中音。美しい所作で弓を引く奈古さんの姿がありました。

弓道は、弓で矢を射て、的にあてる一連の所作を通して心身を鍛錬する日本の武道です。

一般的に的中率を重んじるのが高校弓道ですが、大津緑洋高校弓道部は、弓を引くまでの正しい動作、射型を重視しています。

２年に満たない経験で２段を取得したり、個人で全国大会に出場したりと、めきめきその腕を上げた奈古さんですが、この上達の裏には悔しい経験がありました。昨年９月に中国大会を目指して出場した新人戦団体で惨敗。悔し涙を流したチームは変わりました。練習でも部員全員で試合の空気感を作り、今まで以上に厳しく所作にこだわりました。そして、一人ひとりが己と向き合って個を高めた大津緑洋高校弓道部は、団体戦で中国大会出場を目指します。

袴姿や弓を引く先輩の美しい姿に憧れて始めた弓道。学業との両立に悩み、退部を考えたこともありましたが、奈古さんにとってなくてはならない存在。「前向きに考えるよう自分を変えてくれた。弓を引くことは生活の一部」と話す奈古さんの人生は、弓道とともにあります。